

JA おおいがわ茶果菜保育園とよだ 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を下記の通り公表いたします。
また、自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2024年1月15日（月）～2月9日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2024年2月19日（月）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	「おもいっきり遊ぶ」「おもいっきり学ぶ」の保育理念を意識しながら、職員自身も日々の保育をおもいっきり行えた。子ども一人ひとりに寄り添い、今その子に何が必要でどんな援助をするべきかを全職員で話し合い取り組むことができた。
子どもの発達援助	子どもの年齢や発達に合わせて環境設定を工夫した。 保育室を年齢・月齢で分けることによって、活動に制限をかけてしまうことなかったのではないかとと思う。 今後も子どもの成長発達に考慮し、園生活が送れるように人・物環境を整えていくようにする。
保護者に対する支援	送迎時にその日の子どもの様子を伝えたり、成長したことも伝えたりと保護者とのコミュニケーションを大切にしたい。引き続き、保護者のニーズに応えることが出来るよう最善を尽くしていきたい。
保育を支える組織的基盤	不適切保育についても話し合う機会を多く設けることが出来た。 その結果、職員一人ひとりが自身の保育を振り返り子ども主体となる保育はどのような保育なのかを意識することができた。引き続き職員一人ひとりが保育技術のスキルアップを図れるよう研修等を取り入れていく。

総評
<p>園の保育理念や保育方針を理解した上で、子ども主体の保育とは何か意識しながら保育を行うことが出来た。</p> <p>不適切保育についても研修や事例検討を用いながら、場面ごとどのような対応・援助をすればよいのかを話し合うことで、子どもに寄り添う保育や保育の質の向上に繋がると感じた。</p> <p>次年度も、保育士自身の保育の質を高めていくのと同時に、保護者の気持ちに寄り添い、子育て支援をしていきたい。そして子どもたちが楽しみながら園生活を送ることが出来るよう、適切な環境を整えるようにしていきたい。</p>